

自由記述アンケートから読み解く 仕事にまつわるウェルビーイング

山田 美里 YAMADA Misato

(公財)福岡アジア都市研究所 研究主査

■**要旨**：ウェルビーイングは、誰かから決めつけられるものではなく、人それぞれの考えや経験、環境等によって形成された価値観が影響する。本研究では、福岡市を対象に実施したウェルビーイングに関するアンケート調査の自由記述の回答を分析し、人々の様々なウェルビーイングの捉え方の把握を試みた。その結果、多様な仕事に関する満足度の向上がウェルビーイング実感の向上の鍵になること、仕事を続けながらもストレスなく育児が行えることが子育て中の女性のウェルビーイング実感に必要であること、そして働く人だけでなく就職を意識した学生もワーク・ライフ・バランスへの関心が高いことが分かった。

■**キーワード**：主観的ウェルビーイング、Well-being、自由記述、計量テキスト分析、テキストマイニング、KH Coder

1. はじめに

ウェルビーイングは、誰かから決めつけられるものではなく、人それぞれの考えや経験、環境等によって形成された価値観が影響する。静かな環境での安らぎをウェルビーイングと感じる人がいる一方で、活気のある環境での刺激をウェルビーイングだと感じる人もいます。初めて取り組むプロジェクトに不安感や緊張感が伴ったとしても挑戦しやり抜くことで得られる充実感や達成感にウェルビーイングを感じる人もいるだろう。心の豊かさが重視される現代の都市政策を考える際には、人々が何を大事にし、何に人生の意義を感じているのかというような「その人にとってのウェルビーイング」を把握することが必要になる⁽¹⁾。

本研究では、公益財団法人福岡アジア都市研究所が2023年2月に福岡市の特定の地区や団体等を対象に実施したアンケート調査の自由記述の回答を分析し、人々の様々なウェルビーイングの捉え方の傾向の把握を試みた。

2. 調査内容と分析方法

アンケート調査は、福岡市に住む・関わる人々の「ウェルビーイングの定義（捉え方）」、「ウェルビーイングの現状評価」、「ウェルビーイングの規定因」の3点を明らかにすることを目的に（図1）、表1に示す対象、周知方法、回答方法によって実施された。

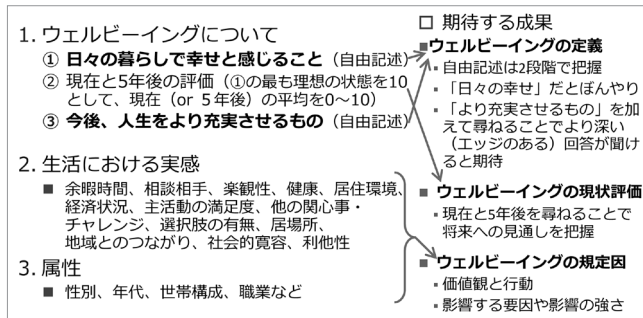


図1 アンケート調査の設問内容と期待する成果
出所：(公財)福岡アジア都市研究所 (2023)

表1 ウェルビーイングに関するアンケート調査の概要

調査の目的	福岡市に住む・関わる人々の ・価値観やウェルビーイングの定義の把握 ・上記に対する現状の把握（現状評価） ・ウェルビーイングを規定する要因の把握
対象	福岡市に住む・関わる人々として、 ・定住人口 ・関係人口
アンケートの周知方法	定住人口 ・福岡市西区内浜校区自治協議会の協力による、自治協だよりへの掲載、SNS等による公民館情報の発信、校区掲示板、事業者によるポスティング（校区内住民8,000世帯への戸別配布） ・市役所情報プラザおよび各区役所の情報コーナーでの調査票の設置 関係人口 ・各団体所属会員への案内（博多駅エリア発展協議会 30 会員、博多まちづくり推進協議会 175 会員、We Love 天神協議会 136 会員、福岡地域戦略推進協議会 228 会員） ・福岡未来創造プラットフォームを通じた加盟大学市内 15 大学への案内 ・市役所掲示板への掲載 ・URC 賛助会員（55 法人、48 名） ・福岡市 Well-being&SDGs 登録企業 395 社
アンケートの回答方法	・ Google フォームで送信 ・ Excel フォームをウェブ上に提出 ・ 調査票の返送
調査期間	2023 年 2 月
配布数・回答数	紙の調査票の配布数 約 8,000 有効回答数 918

出所：(公財)福岡アジア都市研究所 (2023)

ウェルビーイングの捉え方については、「あなたが日々の暮らしにおいて幸せと感じるのはどういとき（どのようなこと）ですか？100字以内で自由にお答えください。」（以下、「日々の幸せ」と、「今後、あなたの人生をより充実させるものは何ですか？（もの・こと、機会、環境など）100字以内で自由にお答えください。」（以下、「より充実させるもの」）の2段階の設問を設定し、自由記述による回答を必須項目として求めた。

自由記述データの分析には、計量テキスト分析ツール「KH Coder (Version 3.Beta.07b)」の利用に加え、分析者による内容確認を行った。

KH Coderとは、「計量テキスト分析またはテキストマイニングのためのフリーソフトウェア（自由ソフトウェア）」⁽²⁾であり、アンケートの自由回答データやインタビュー記録といった社会調査データ

や、マス・メディアの報道内容、ソーシャルメディアでの発信内容、会議録の分析などに活用されている⁽³⁾。

本研究では、KH Coderに備わる機能のうち、頻出ワードの一覧を出力できる「抽出語リスト」コマンド、特定の抽出語の前後にどのような語が使われているかを目視できる「KWIC コンコーダンス」やその出現頻度を示す「コロケーション統計」コマンド、特定の語と文内で共に出現する語の関係の強さを示す「共起ネットワーク」コマンドなどを活用し、アンケート自由記述の傾向を捉えることを試みた。そして、特定の事柄に言及している回答と言及していない回答を分類し、どのような属性、状況の回答者が言及しているか、またどのような文脈で言及されているかなどの解釈を試みた。

3. 集計結果

3.1. 回答者属性と改変調整

調査の結果、918の有効回答が得られた。回答者の性別は女性(n=484)、男性(n=416)とほぼ同等で、20～50代が全体の約76%を占めた(図2)。職業別では、正規従業員やアルバイト・パートなど働いて収入を得ている人が約7割、学生が約15%であった(図3)。

自由記述データには、意味が同じで表記や言い方が異なる言葉が含まれていたため、KH Coderを用いる前のデータクリーニング(調査の精度を高める目的で行う誤字脱字の修正など)の段階で表2、表3のように改変した。

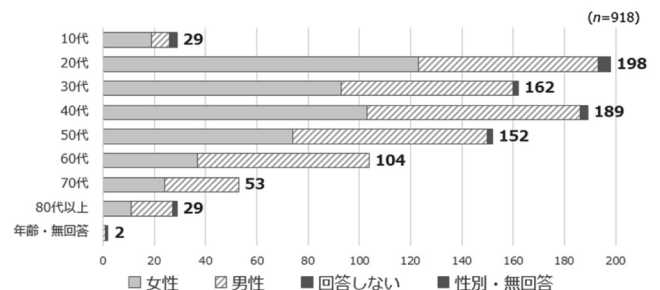


図2 アンケート調査有効回答数の内訳 (年齢区分・性別)

出所：(公財)福岡アジア都市研究所 (2023)

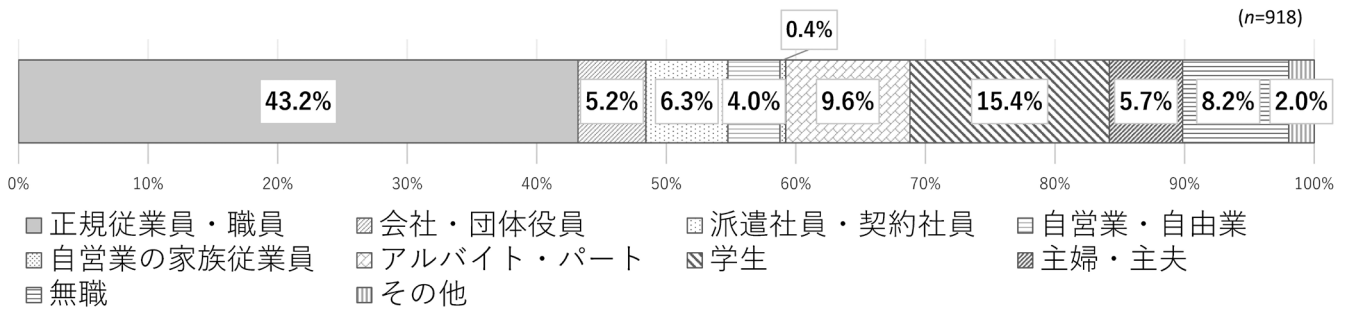


図3 アンケート調査有効回答数の内訳（職業別）

出所：(公財)福岡アジア都市研究所（2023）

表2 「日々の幸せ」の回答データで改変した言葉

改変前	改変後
おいしい、美味い	美味しい
すごす、すごし	過ごす、過ごし
ご飯、食べ物、ごはん	食事
友達、友だち	友人
子供、こども、息子、娘	子ども
(天気が、仲が) いい、(心地、より) よい	(天気が、仲が、心地、より) 良い
金銭、資金、生活資金、金	お金
あったかい、温かい、暖かい	あたたかい
つながり	繋がり
つながる	繋がる
つながって	繋がって
ねこ	猫
ねがお	寝顔
たべ	食べ
ふれ	触れ
ふとん	布団
私生活	プライベート
休みの日、休み	休日
ねる	寝る

出所：筆者作成

表3 「より充実させるもの」の回答データで改変した言葉

改変前	改変後
おいしい	美味しい
すごす、すごし	過ごす、過ごし
ご飯、食べ物	食事
友達	友人
子供、こども、息子、娘	子ども
(天気が、仲が) いい、(心地、より) よい	(天気が、仲が、心地、より) 良い
金銭、資金、生活資金、財力、金	お金
つながり	繋がり
つながる	繋がる
つながって	繋がって
ライフワークバランス	ワークライフバランス
私生活	プライベート
休みの日、休み	休日

出所：筆者作成

3.2. 頻出語

まず、KH Coderの「抽出語リスト」コマンドを用いて、「日々の幸せ」と「より充実させるもの」の自由記述データの頻出語のうちの上位30語とその出現頻度（回答の数）をそれぞれ表4と表5に示す。「日々の幸せ」として、「家族」「美味しいもの」「食事」「時間」などが頻出する名詞の上位に挙げられた。「より充実させるもの」では、「仕事」「家族」「健康」「お金」などが上位に挙げられた。

表4 「日々の幸せ」に関する自由記述における頻出語

順位	抽出語	頻度	順位	抽出語	頻度	順位	抽出語	頻度
1	する	324	11	健康	102	21	生活	60
2	家族	292	12	幸せ	94	22	いる	57
3	食べる	212	13	友人	93	23	見る	47
4	美味しい	188	14	仕事	84	24	ない	46
5	食事	168	15	ない	81	25	趣味	43
6	過ごす	126	16	自分	81	26	過ごせる	42
7	感じる	125	17	人	79	27	楽しい	41
8	時間	112	18	一緒	72	28	日々	41
9	できる	107	19	ある	68	29	笑顔	39
10	子ども	104	20	好き	67	30	寝る	39

出所：KH Coderを利用して筆者作成

表5 「より充実させるもの」に関する自由記述における頻出語

順位	抽出語	頻度	順位	抽出語	頻度	順位	抽出語	頻度
1	する	292	11	人	102	21	友人	52
2	仕事	145	12	ある	94	22	旅行	51
3	家族	137	13	ない	81	23	社会	41
4	健康	136	14	充実	80	24	収入	40
5	お金	129	15	思う	76	25	安定	38
6	環境	127	16	生活	76	26	好き	37
7	できる	117	17	趣味	73	27	関係	36
8	子ども	114	18	成長	70	28	今	35
9	自分	114	19	なる	68	29	自由	33
10	時間	105	20	ない	53	30	ぬ	32

出所：KH Coderを利用して筆者作成

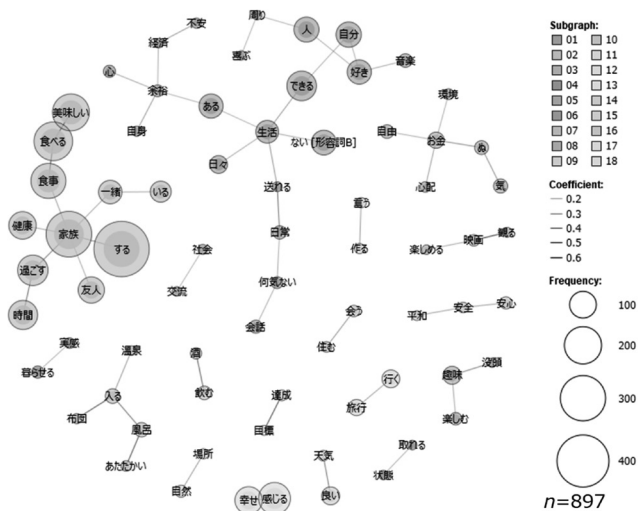


図4 「日々の幸せ」に関する自由記述の共起ネットワーク

出所：KH Coder を利用して筆者作成

次に、KH Coder の「共起ネットワーク」コマンドを用いて、出現パターンの似ている語（文内で一緒に出現する語）のうち頻度の強い語同士を線で結んだネットワーク図を、「日々の幸せ」を図4に、「より充実させるもの」を図5に示す。丸いバブルのサイズは出現頻度の多さを示している。

「日々の幸せ」として、家族（や友人、子ども）と楽しく過ごすとき、美味しいものを食べているとき、家族の健康の記述が多くみられた。「より充実させるもの」として、「日々の幸せ」と同様に、家族との時間や家族の健康の記述が多くみられた。また、仕事の機会ややりがい、金銭的な余裕、子どもの成長の記述も多くみられた。

3.3. 年齢グループ別頻出語

「日々の幸せ」と「より充実させるもの」の頻出語を年齢グループ別にみると、年代ごとに変化していることが分かる（図6）。「日々の幸せ」と「より充実させるもの」の上位頻出語の頻度（回答数）を合計し、頻度上位3つの頻出する名詞（同位の場合は4つ）を下線付き太字で示している。10-20代は、他の年代にはみられない「友人」「自分」「人」という言葉が上位にランクインしている。これは、青年期の自己形成に友人関係が大きな意味を持つという特徴⁽⁴⁾と類似する。30-40代は、子育て期間中の人が多いことが考えられ、「家族」「子ども」「仕事」が多く言及されている。50-60代では、子どもが巣立つ時期と考えられ、「家族」「仕事」「健康」が多く言及されている。70-80代以上になると、「健康」「生活」「孫」が多く言及されている。

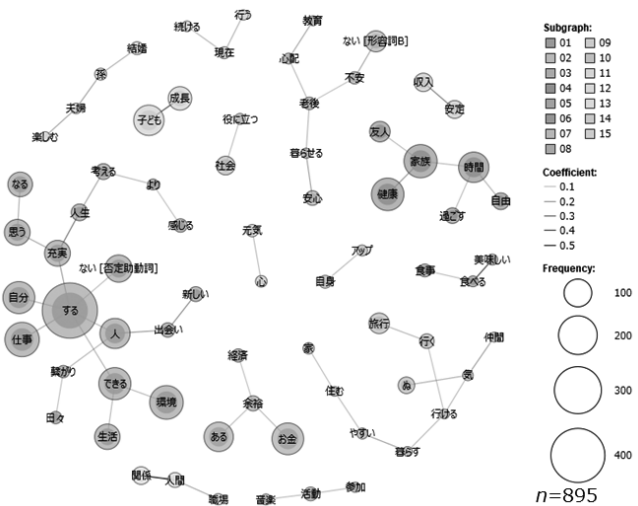


図5 「より充実させるもの」に関する自由記述の共起ネットワーク

出所：KH Coder を利用して筆者作成

10-20代 (n=227)				30-40代 (n=351)				50-60代 (n=256)				70-80代以上 (n=82)			
日々の幸せ		今後、より充実		日々の幸せ		今後、より充実		日々の幸せ		今後、より充実		日々の幸せ		今後、より充実	
抽出語	回答数	抽出語	回答数	抽出語	回答数	抽出語	回答数	抽出語	回答数	抽出語	回答数	抽出語	回答数	抽出語	回答数
食べる	93	する	67	家族	149	する	118	する	93	する	78	健康	22	する	29
する	87	お金	43	する	123	仕事	71	家族	84	健康	67	する	21	健康	25
美味しい	66	自分	38	美味しい	88	家族	68	健康	43	家族	41	家族	15	生活	11
食事	61	環境	34	食べる	83	子ども	68	食事	41	できる	38	孫	14	なる	10
友人	52	仕事	34	子ども	67	環境	56	できる	38	仕事	38	できる	13	ある	9
家族	44	人	31	過ごす	62	時間	53	感じる	35	生活	35	感じる	13	ない	8
人	36	できる	29	食事	60	お金	52	食べる	32	自分	33	生活	12	環境	8
時間	34	時間	26	感じる	47	できる	44	美味しい	32	お金	32	ある	11	思う	8
好き	33	友人	25	時間	47	充実	42	ない	30	子ども	30	ない	7	人	8
感じる	30	ある	24	仕事	45	健康	41	幸せ	30	人	30	過ごす	7	元気	7
自分	29	趣味	24	健康	37	成長	38	過ごす	29	環境	28	子ども	7	自分	7
過ごす	28	ない	23	幸せ	35	自分	36	仕事	28	思う	27	自分	7	孫	7
できる	27	家族	23	ない	33	ある	35	時間	27	ある	26	出来る	7	旅行	7

図6 年齢グループ別 頻出語リスト

出所：KH Coder を利用して筆者作成

3.4. 「仕事」に言及する回答者の割合

3.2で示した、「より充実させるもの」に関する自由記述の共起ネットワークの図(図5)において、「仕事」のバブルが比較的大きく表示されている。自由記述「日々の幸せ」と「より充実させるもの」の回答を統合し、「仕事」「会社」「組織」に言及している回答と、文脈から「仕事」に関連する内容と判断できる回答の回答者数を集計したところ、全体の約3割あった(図7)。

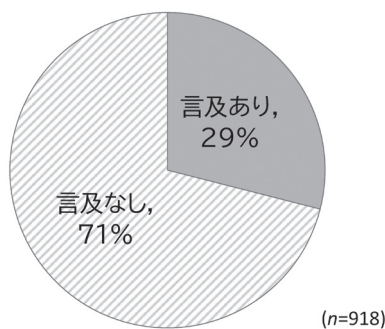


図7 自由記述で「仕事」に言及した回答者の割合

出所：筆者作成

4. 「仕事」にまつわる分析結果と考察

今回のアンケート調査では、他の設問で「ウェルビーイングの規定因(ウェルビーイング実感に影響する要因)」の把握を試みた⁽⁵⁾。ウェルビーイングの規定因として「日常の主な活動(仕事・学業・家

事・地域活動ほか)に満足している」ことが影響することが分かった。これは、日常の主な活動に満足している人ほど、ウェルビーイングの実感評価が高いことを示している。

本調査の回答者の約7割が働いて収入を得ている人であることから(図3)、日常の主な活動を「仕事」と捉えて回答した人が比較的多いことが考えられる。このため、「仕事に満足していること」がウェルビーイング実感の向上に影響すると捉えられる。また、「仕事」は、全体の回答の「より充実させるもの」の中で最も頻出した名詞(表5)であることから、「仕事」に着目し、その文脈や属性についての探求を試みた。

4.1. 多様な「仕事」の文脈

まず、「仕事」の内容を確認する。回答者毎の「日々の幸せ」の回答と「より充実させるもの」の回答を一つの文書として統合した上で、「仕事」「会社」「組織」に言及している回答および文脈から「仕事」に関連する内容と判断できる回答を対象に、KH Coderの「共起ネットワーク」コマンドを用いて、出現頻度の多い語や、一つの文内で共に出現する語同士の関係を示した(図8)。「仕事」・「環境」、「充実」・「人生」、「収入」・「安定」、「目標」・「達成」、「経済」・「余裕」・「不安」、「人間」・「関係」などの語が共起している。

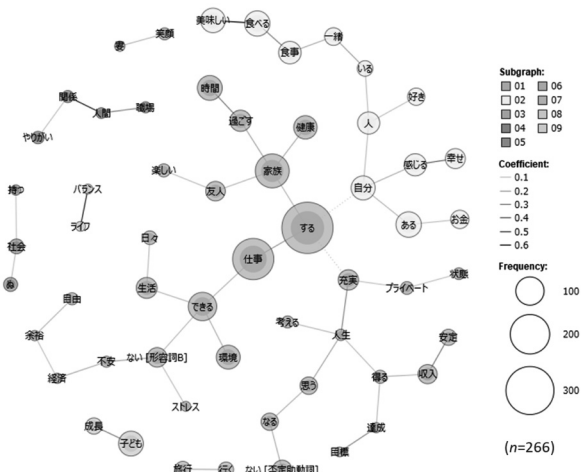


図8 自由記述で「仕事」に言及している回答の共起ネットワーク
出所：KH Coder を利用して筆者作成

表6 「仕事」に言及している文脈の分類と回答例

分類	回答例 (抜粋、一部要約)
仕事の有無	「仕事があり、お金があり…」 「健康で仕事ができること」 「仕事が続けられること」
経済的安心	「仕事で安定し、金銭的な不安がないこと」 「安定した収入を得られる仕事」
やりがい・充実	「やりがいのある仕事でできた時」 「仕事で充実している時」 「仕事に熱中している時」 「仕事で達成感を得られた時」
評価	「仕事で上司から認められた時」 「仕事で信頼を得られた時」
社会参加	「仕事で社会の役に立つ」 「仕事を通して社会との接点を保持し、責任感や自己有用感を持ち続けられること」
チャレンジ	「仕事とプライベートにメリハリを付け、成長できる環境」 「仕事やプライベートでもチャレンジできる環境」 「様々な環境での仕事の経験」 「仕事や趣味を通じた経験」
人間関係・労働環境	「やりがいがあり、人間関係が良好な職場環境」 「仕事環境が良くなること」 「人間関係が良好で適切に賃金が支払われる職場環境」 「自由に働ける環境と身体」 「育児をしながらも正社員で働ける環境」 「仕事と育児がストレスなく両立できる環境」
ワーク・ライフ・バランス	「仕事と家庭の充実」 「仕事とプライベートの時間のバランス」
余暇時間	「仕事終わりに美味しいもの」 「仕事から解放されている時」

出所：筆者作成

次に、KH Coder の「KWIC コンコーダンス」と「コロケーション統計」コマンドを用いて、「仕事」の文脈を確認し、分類を行った(表6)。文脈は多岐に渡り、「仕事があること」、「仕事ができる状況(環境)であること」がウェルビーイングであると考えられる人がいる一方で、「仕事をしていない時間」や「仕事とプライベートの充実(ワーク・ライフ・バランス)」を重視する人もいる。また、「仕事にやりがいを感じる時」や、「評価された時」、「チャレンジできる環境にある時」など、仕事の中身に意義を感じる人がいることも分かった。さらに、「人間関係」や「雇用条件」などの労働環境への言及も見られた。

次に、どのような人が「仕事」に言及しているのかを確認する。図9は、自由記述で「仕事」に言及している職業別、性別の回答者数と、その属性ごとの「仕事」に言及している人の割合を示す。男女ともに、「正規従業員・職員」は全体の割合と同様に3割が、「自営業・自由業」は過半数が、「仕事」に言及している。また、働いていない人も「仕事」に言及しており、「主婦(n=48)」は21%が言及し、仕事を通じた「社会との接点」「居場所」「育児との両立」「仕事復帰」といった記述がみられる。「学生」も約3割が「仕事」に言及しており、「アルバイトでの経験」を通じた仕事のやりがいや評価だけでなく、将来的な「就職後の生活」への不安や希望に関する記述がみられた。

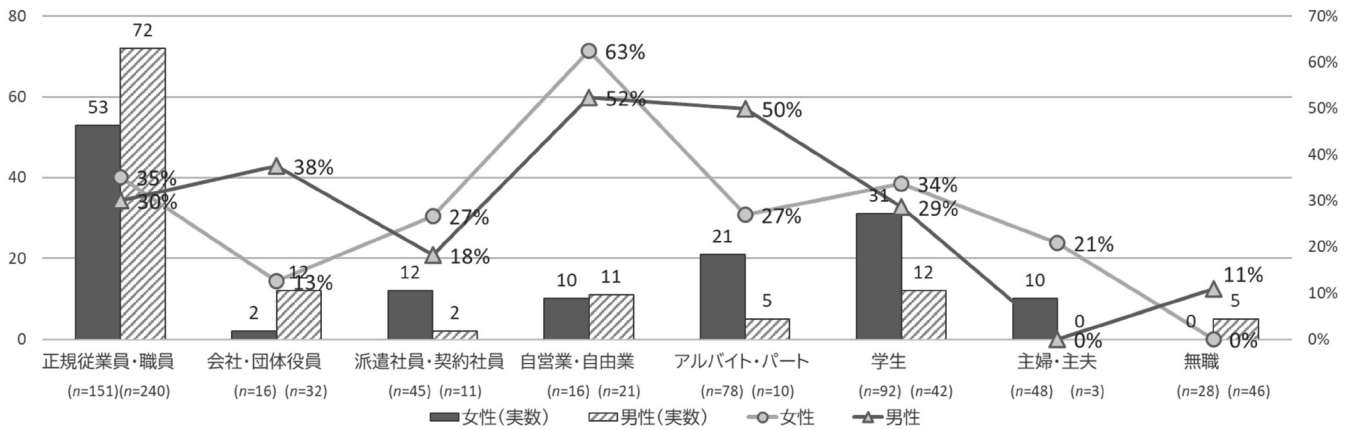


図9 「仕事」に言及する回答者の職業別性別の回答数と割合

出所：筆者作成

注：「日々の幸せ」と「より充実させるもの」についての自由記述の回答を統合し、「仕事」関係として「仕事」「会社」「組織」への言及に加え、仕事の文脈を含む回答を対象に分析。

表7 「仕事」「お金」に言及している学生による自由記述の文脈の分類と回答例

分類	回答例(抜粋、一部要約)
選択肢	「好きな仕事」「自分のしたいお仕事」「目指す職についていること」「希望の就職先につくこと」「自分の人生がはっきり見えたときにもっと幸せになれる」
やりがい・チャレンジ	「やりがいのある仕事をするのができれば、人生が充実になる」「仕事でのやりがい」「不安なく起業できたり、キャリアアップのための転職ができたりすることそしてそれが保障される環境があること」「福岡に住んでいても、東京や大阪と同じくらいの仕事の機会があること。特にクリエイティブ職や研究・開発職の求人」「仕事や趣味におけるよい巡り合わせ、自分の力を発揮できる機会」「自由な環境で新しいことや誰も取り組んだことのない課題に挑戦できること」「程よい責任感、ストレスを感じることができる仕事とその仕事を通して得られる達成感」
評価	「就職先での評価」「ちゃんとした就職先で、自分の実力を発揮して、社会や他者に認めてもらうこと」「自分が社会に必要とされていると感じられる体験や瞬間」
収入	「働くことによってお金を得て、自分の夢である海外へ行く」「人間らしく生きることのできる収入や環境」「お金や環境の面で制約を受けない」「職場で給料をだんだん上げること」
安定	「安定した仕事」「就職して安定を得ること」
人間関係	「精神的負担が少ない環境で好きな仕事をする」「人間関係に気を使い過ぎずに済む仕事環境」「尊敬できる人に囲まれる環境」
時間	「働いていても自分のタイミングでプライベートを充実させられること」「趣味をより満喫するのに必要なお金と時間」「安定した収入と休日のある仕事」「自分の時間は持たなくても収入を得ることができるようになり、欲しい物を買うことで心や人生を満たし充実させる」

出所：筆者作成

注：「日々の幸せ」と「より充実させるもの」についての自由記述の回答を統合し、「仕事」に言及は、「仕事」「会社」「組織」への言及に加え、仕事の文脈を含む。「お金」に言及は、「お金」「収入」「給料」「賃金」「昇給」「資産」に言及を含む。

自由記述「より充実させるもの」の回答には、「お金」への言及も多くみられた(図5)。「お金」は、10-20代の「より充実させるもの」の抽出語リスト(図6)でトップとなった名詞であり、10-20代(n=227)のうち約6割が学生である。そこで、「仕事」に限らず、「仕事」または「お金」に言及している学生(n=63)の回答を対象に、KH Coderの「KWICコンコーダンス」と「コロケーション統計」コマンドを用いて文脈を確認し、分類を行った(表7)。好きな仕事、希望の就職先、といった仕事の選択肢があることや、仕事の中身に対し、やりがいや達成感を感じられるかどうか、そして、仕事を通じて評価されることや収入を得ることなどが意識されている。また回答には、「働いても自分のタイミングで…」や「自分の時間は持たなくても…」といった、仕事によって時間的制約を受けることになっても、プライベートを大切に「ワーク・ライフ・バランス」を意識した記述が見られた。

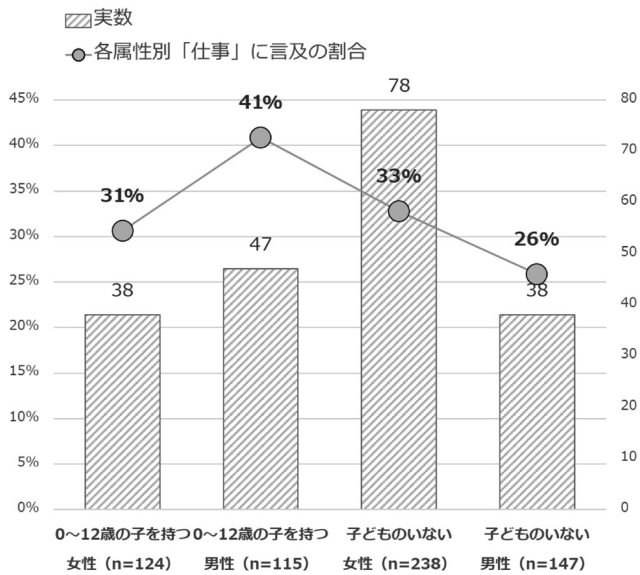


図 10 「仕事」に言及する回答者の傾向（子どもの有無別・性別）

出所：筆者作成

4.2. 「仕事」と「育児」への言及

次に、0-12歳の子どもを持つ女性（n=124）、0-12歳の子どもを持つ男性（n=115）、子どものいない女性（n=238）、子どものいない男性（n=147）が、自由記述「日々の幸せ」、「より充実させるもの」の回答のいずれかまたは両方において、「仕事」に言及している回答者のそれぞれの属性ごとの割合を比較した（図10）。そして、これら「仕事」に言及する人のうち、「育児」にも言及する回答者のそれぞれの属性ごとの割合を比較したところ（図11）、21%の子どもを持つ女性が「育児」に言及しているのに対し、同じく子どもを持つ男性は2%しか言及しておらず、子育て中の男女間における意識の差が表れた。

「仕事」に言及する女性が「育児」に言及する回答には、正社員で働いていても育児中は無理なく働ける環境、子育てを終え働ける環境、仕事と育児がストレスなく両立できる環境、育児をしながらも仕事を持って自分の社会的な居場所があること、などがみられた。

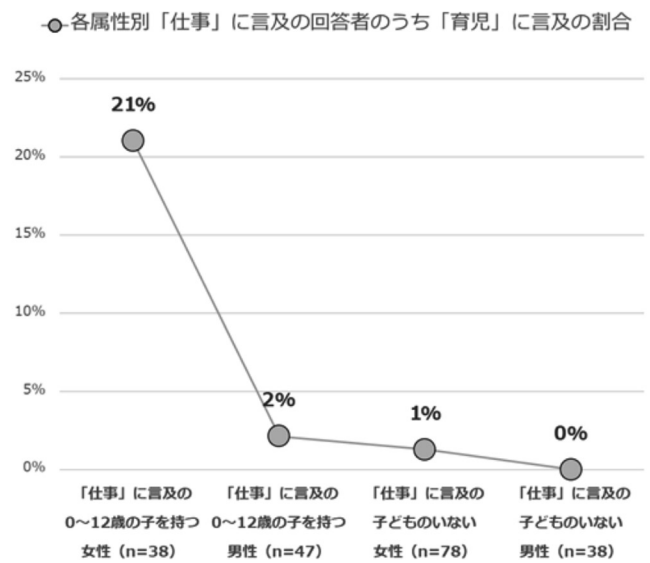


図 11 「仕事」に言及する回答者のうち「育児」に言及する回答者の傾向（子どもの有無別・性別）

出所：筆者作成

4.3. 余暇時間とワーク・ライフ・バランス

今回のアンケート調査では、平日1日あたりの余暇時間（睡眠、労働、食事、家事等の生活を営む上で必要となる時間を除く）と、その余暇時間が十分だと感じるかを尋ねた。男女別に余暇時間とその余暇時間への満足度をみると（図12）、男女とも「2時間」の余暇時間が最も多いが、満足している人は半数もいない。余暇時間が「2時間未満」で満足している回答者は20%を切る。男女ともに8割以上が満足するのは余暇時間が「5時間以上」の回答者であるが、過半数が満足する余暇時間は男女で異なる。女性は「2時間」で満足する人が32%と限定的であるが、「3時間」になると66%と過半数が満足と感じている。女性の回答には、この1時間の余暇時間に差がみられたのに対し、男性は「2時間」で45%が満足、「3時間」で54%が満足、「4時間」で53%が満足と、「4時間」でも十分だと感じない人が半数いることが分かった。

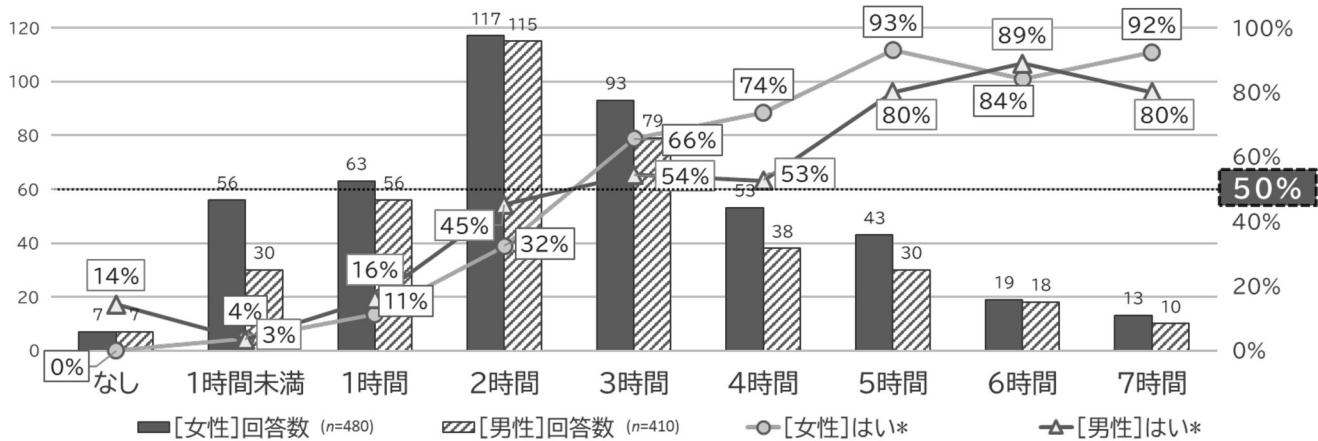


図 12 余暇時間に満足している人の割合（性別）

出所：筆者作成

注：「回答者が答えた『平日1日あたりの余暇時間』は十分だと感じるか」の問いに対する回答。「はい」は「どちらかと言えば「はい」を含む。「いいえ」は「どちらかと言えば「いいえ」を含む。回答数合計に空白の回答は含まない。

全体的に、余暇時間が十分でないと感じる人が多い一方で、「時間」は「日々の幸せ」および「より充実させるもの」の頻出語の上位10語に含まれており（表4、表5）、関心の高い回答者が多い。「時間」に言及している「日々の幸せ」の回答例として、家族とゆっくりした時間、穏やかな時間、趣味の時間、仕事とプライベートの時間のバランスが取れている状態、自分の時間、があった。「より充実させるもの」の回答例として、自由な時間、時間の余裕、家族・友人との時間、があった。余暇時間は満たされていないものの、ワーク・ライフ・バランスが重視されていると捉えることができる。

4.4. 考察

4.2で示した「育児」への言及の男女差（図11）から、女性は男性同様に「仕事」を意識しながら、男性よりも「育児」を意識する立場にあることが考えられる。周が、これまでの日本の女性について、「妊娠・出産を機にキャリアの主戦場から離れ、子育てがひと段落してから、パートとして再就職する専業主婦型のライフスタイルを選ぶことが多かった」と分析している通り⁽⁶⁾、育児や家事の主な担い手が女性となっている状況があり、令和2年度版男女共同参画白書⁽⁷⁾においても「家事・育児・介護」の負担が女性に偏っていることが改善されていないことが指摘されている。4.3で示した余暇時間への満足度の男女差（図12）は、女性が短い余暇時間で満足

しているというわけではなく、家事や育児に追われる女性が実質的に限られた余暇時間を受け入れざるを得ない状況があるとも考えられる。女性の活躍推進の観点では、子育て中の働く女性の離職防止や専業主婦のフルタイム職場への復帰を推進する必要があるためには、仕事を続けながらストレスなく育児が行える環境の整備が、職場でも家庭でも求められる。

また、自由記述において全体的に「時間」への言及が多くあり、仕事とプライベートの充実や休日の確保など、「ワーク・ライフ・バランス」は、働く人に限らず学生も意識していることが分かった。次代を担う学生が「仕事」に対して抱く期待や不安は、学生の地域定着を促進する上でも理解を深める必要があり、「ワーク・ライフ・バランス」の実現は方策の一つであると考えられる。

5. まとめ

自由記述の分析によって、人々の様々なウェルビーイングの捉え方のうち「仕事」に関連する内容を中心に、その傾向を把握することを試みた。一般的に自治体の実施するアンケート調査の自由記述欄は、必須回答ではなく、「もしあれば」といった補足的な項目となっており、十分な分析が行えない傾向がある。今回の調査では、選択式回答だけでなく、必須回答とした自由記述を併せて分析すること

によって、回答の背景の情報を得ることができ、把握しづらい人々の主観（考え方・感情）の傾向を一定程度把握できることが分かった。一方、今回のアンケート調査で設問に含まれていなかった所得や業種に関する情報があれば、より細かな傾向の把握とウェルビーイングの実感に繋がる対策の検討ができるようになると考えられる。

また、今回の分析では、頻出語や大きな割合を占める回答に着目して回答の傾向として示したが、政策や施策の検討を行う際には、属性ごとや地域ごとの課題把握において包摂性に留意し、小さな割合の回答にも着目する必要がある。

謝辞

本研究で用いたアンケート調査にご協力いただいた皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。また、弊所 2022 年度・2023 年度総合研究の一環である同アンケート調査のデータ集計に関して、弊所 張睿研究スタッフに作業いただきました。感謝申し上げます。

参考文献

- (1) 菊澤育代, 山田美里. 2022 年度総合研究報告書 ウェルビーイング：新たな都市の評価に関する研究. [福岡市]: 公益財団法人福岡アジア都市研究所; 2023.
- (2) 樋口耕一. KH Coder 概要と特長 [Internet]. KH Coder. 2023 [cited 2023 Oct 30]. Available from: <https://kncoder.net/>
- (3) 樋口耕一. 社会調査のための計量テキスト分析【第2版】：内容分析の継承と発展を目指して. ナカニシヤ出版; 2023.
- (4) 中間玲子. 青年期の自己形成における友人関係の意義. 兵庫教育大学研究紀要：学校教育・幼年教育・教育臨床・障害児教育・言語系教育・社会系教育・自然系教育・芸術系教育・生活・健康系教育・総合学習系教育. 2014 Feb; 44: 9-21.
- (5) 菊澤育代, 山田美里. 主観的ウェルビーイングの規定因と政策形成に向けた考察. In: 都市政

策研究 第 25 号. 福岡アジア都市研究所; 2024. p. 57-67.

- (6) 周燕飛. 第 9 章 コロナ禍の女性雇用. In: 樋口美雄, 労働政策研究・研修機構, editors. コロナ禍における個人と企業の変容：働き方・生活・格差と支援策. 慶應義塾大学出版会; 2021. p. 213.
- (7) 内閣府. 令和 2 年版男女共同参画白書. 2020.